

備中櫓の復元整備工事を開始してから足掛け4年。ようやくみなさんの前に備中櫓が姿を現しました。工事は内装の仕上げを残すのみとなりました。今回は櫓に葺かれている瓦について説明します。

備中櫓の瓦は平瓦と丸瓦を交互に葺いていく「本瓦葺き」という伝統的な技法で葺かれており、平瓦約1万5,000枚、丸瓦約6,000枚、その他の瓦を合わせると計約3万枚、10種類以上の瓦が使用されています。

これらの瓦は基本的に備中櫓の事前の発掘調査で出土したものを検討し、備中櫓復元整備の目標である「森忠政が造った備中櫓」という時代設定に矛盾しない型式のものを忠実に再現しています(写真1)。



写真1 発掘で出土した瓦と実際に葺かれている瓦

ところで、今回備中櫓に使用された瓦の中で最大のものは、「鯨」です。2階の棟の南北に据えられた阿吡一對の鯨はそれぞれ高さが約1メートルもあります。鯨は残念ながら発掘調査では全体の形がわかるものは出土していません。ただ、破片の中に、鯨の鱗が粘土板をはり付けることによって表現されているものがありました。鯨の鱗は線描によって表現されるのが一般的であり、このようにはり付けによるものは類例が少なく珍しいものですので、この鱗の表

津山城備中櫓百聞録

58 津山城備中櫓8 備中櫓に使用されている瓦

現方法は復元する鯨にいかすことにしました。鯨全体の形は、備中櫓と同時期ごろに建立された城(大阪城乾櫓)の瓦を参考にしていきます。



写真2 備中櫓外観

また、棟の先端を飾る鬼瓦についても、発掘調査では森家の時代のものは出土していませんので、森家ゆかりの寺院などに使用されているものを参考に森家の家紋である「鶴丸」の文様をあしらったものを作成しています。

いずれの瓦も釉薬は使用していない焼し瓦ですが、このような瓦は冬場に水が染み込み、それが凍結して破損するということがあります。これを防ぐために備中櫓の瓦は1,100度以上の高温で焼成しており、寒さによる破損がないことを確認しています。

ちなみに築城400年記念事業協賛記念として記帳していただいた「平瓦」は、記帳した面を下にして、2階の屋根に葺いています。ですから現在その内容を見ることはできませんが、50年後、あるいは100年後に備中櫓の修理が必要となり、屋根の瓦を外したとき、備中櫓復元時に書かれたメッセージが再び未来の市民の目にふれることになるのです。

職場も家庭もかぜ、かぜ、かぜ。今年の冬はかせだらけ。かぜは引きはじめが肝心。長ぶるで汗を流し、クスマメ科(の根が原材料の「葛根湯」(市販品)を飲んでよく眠る。翌朝「治つた!」と思いきや、また職場でうつされるのでした。(X)

新年明けましておめでとございます。広報担当3年目の正月を迎えました。運動不足解消のためにも部屋の中に閉じこもらず、しっかりと取材に動き回りたいと思います。みなさん、編集後記だけでなく広報紙の中身も読んでください。(郁)

原稿締め切りの朝、ぎょえ、編集後記忘れてた!!と始業前から必死に頭をひねる。でもあせつた頭には何も浮かばない。ああ、新年号からこんな幕開けでは。今年こそ余裕を持って仕事をしたい、と強く強く願っています。(e)

編集後記

今月の納税

市県民税4期
国民健康保険料6期
介護保険料8期
納期限:1月31日(月)

ひとの動き

(12月1日現在)
人口 90,279人(前月比+9)
男 43,080人(同+12)
女 47,199人(同+3)
世帯数 35,241世帯(同+45)

11月中の異動数

出生 68人、死亡 72人
転入 272人、転出 259人

1月

2005

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)
発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。